

大牟田市立みなと小学校

1 本校のESDの特徴

本校では、有明海に接し、校区に三池港を有するという地理的条件を生かして、有明海にかかわる人やもの、ことを教材とした「海洋教育」に取り組んでいる。この海洋教育については、「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を活用する」を全体テーマとして、有明海に流れ込む諏訪川沿いに位置する天領小学校、駛馬小学校、天の原小学校と協働して展開するカリキュラムに基づいて実施している。大牟田市の海洋教育の特色として、前述の協働性を重視しながら「森→川→海」の視点で総合的に海洋の価値や課題を捉えていく『デルタ型海洋教育』を展開している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

SDGsの目標14「海の豊かさを守ろう」を中心に据え、東京大学大学院教育学研究科附属海洋教育センターのご指導を頂きながら、天領小学校、駛馬小学校、天の原小学校と協働した海洋教育に取り組んでいる。また、昨年度から大牟田市海洋教育推進協議会ワーキンググループで協働的なプログラムの作成を進め、今年度から実施している。今年度の各学年における学習テーマは右表1の通りである。

また、協働性を高めるために、Zoomを用いた4校合同学習を設定し、表1の各学年のテーマに対して各校が校区の特色を生かしながら役割分担して調査を進め、情報共有を行うことができるよう、情報機器などの環境整備を行っている。協働プログラムの流れは右表2の通りである。これにより「河川上流域→下流域→沿岸域」のつながりや各地域の特長、問題など、児童が各学校の学びを点から面へと広げて捉えることができるプログラムとなっている。

(詳細は「海洋教育実践報告書」を参照)

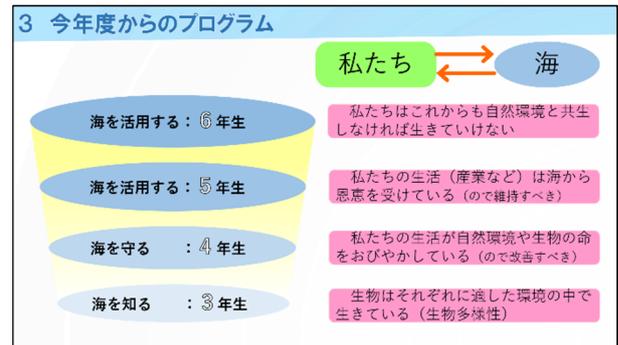


表1 海洋教育学習プログラムのテーマと系統



表2 zoomを用いた海洋教育学習プログラムの流れ

3 特徴的な活動事例の紹介

(1) 3年生：「有明海の生き物を調べよう」

3年生は「水中には多様な生物がそれぞれに適した環境の中で生きていること」をテーマに、協働学習を行った。まず、干潟体験を通して様々な生物が生きていることを知った児童は、4校で川や干潟、海中に棲む生き物を役割分担して調べることを話し合い、本校では海中の生き物を調べた。次に、地域の漁師の方に有明海で獲れる魚について教えて頂き、絵図にまとめて4校で情報共有した(写真1)。そして、4校で調べた水中に棲む様々な生き物について多くの人に伝える計画を立て、本校では図鑑やポスター、生き物マップ、校内掲示物の作成に取り組んだ。活動を通して、児童は「生き物には、それぞれ住む場所に好みがあることが分かった」と、生物の多様さについての理解を深めることができた。



写真1 調べたことを情報共有する合同学習の様子

活動を通して、児童は「生き物には、それぞれ住む場所に好みがあることが分かった」と、生物の多様さについての理解を深めることができた。

(2) 4年生：「有明海の環境の問題を調べよう」

4年生は「人の生活が海の環境に影響を与えているので、守らなければならないこと」をテーマに、協働学習を行った。まず、海の環境の悪化が問題になっていることを知った児童は、4校で役割分担して諏訪川や有明海の環境を調査することを話し合い、本校では元三池海水浴場のごみを調べ、たくさんのごみが落ちていることを明らかにした。次に、拾ったごみを分別して（写真2）、水に浮かぶ浮遊ごみが多いことに気付く、4校で情報共有した。そして、下流に行くほど浮遊ごみの量が多かったことから、児童は流されたごみが海に溜まっていると考え、現状を伝えるポスターの作成に取り組んだ。



写真2 拾ったごみを分別する活動の様子

(3) 5年生：「有明海と人の生活の関係を調べよう」

5年生は「海は人の生活に恩恵や悪影響を与えているので、共存していかなければならないこと」をテーマに、協働学習を行った。まず、海が人に与えている影響に着眼した児童は、4校で役割分担して海と人の関係を調査することを話し合い、本校では海洋温暖化がもたらす影響について調べた。次に、減災に目を向け、地域の方から令和2年7月豪雨発災時の状況を聞き取り（写真3）、自助や共助が必要であることを考えて4校で情報共有した。そして、自分たちにできる自助や共助として災害対応マニュアルや防災マップづくりに取り組み、公民館等に配付して広報を行った。



写真3 発災時の状況を聞き取る児童

(4) 6年生：「有明海とともに生きていくために大切なことを考えよう」

6年生は「これからも海と共生するためには自分たちの行動が大切であること」をテーマに、協働学習を行った。まず、これまでの学習を通して海と人の生活が密接に関わっていることを確認した児童は、4校で協働して海に関する問題を調べる計画を立て、本校では有明海の漁獲量減少について調べた。次に、地域の漁師さんから「海が綺麗になりすぎて栄養が無くなっている」ことが問題であることを教えて頂き、4校で情報共有した。そして、植林活動に協力するための募金活動や、問題を呼びかけるための動画作成、地域のごみ拾い活動など、自分たちにできる活動を考えて取り組み、『海洋教育子どもサミット 2021 in おおむた』において九州管内で海洋教育に取り組む様々な学校に向けて発信した（写真4）。



写真4 サミットにて他校と意見交流する児童

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・4校の協働性と系統を重視したマトリクス構造である学習プログラムを展開することができた。
- ・海洋について発達段階に応じて理解を深めさせ、伴って行動力を身に付けさせることができた。

○課題

- ・系統性を念頭に、小中連携を図り、学習プログラムを改善していかなければならない。
- ・学習プログラムを見直し、更に自分事として捉えることのできるよう改善しなければならない。